

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 0990200156 | | |
| 法人名 | 株式会社 ハートフルケア | | |
| 事業所名 | グループホームひなた庵 | | |
| 所在地 | 栃木県足利市小俣町291-3 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年10月12日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年1月9日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年11月9日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひなた庵は平成21年4月に開設し、14年が経ちました。大きい通りから少し入った静かな住宅街の中にあります。食事は3食職員の手作りで季節の物を使い提供をしています。町内会に加入し、近所を散歩していると挨拶する顔なじみの方も増えてきました。ひなた庵では、入居者様に役割、生きがいを感じていただけるような介護サービスを行っています。また、日々安心して生活して頂けるよう環境整備をし、過ごしやすい季節には積極的に外出行事を行い楽しい生活を提供したいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市北西部の閑静な住宅街の中に位置しており、同法人が運営するケアホームが隣接している。ケアホームとは行事や避難訓練などを合同で行っているほか、利用者の体調の変化時には看護師の助言を得たり、状態によっては職員の応援を受けるなど連携が図られている。食事は職員が季節の食材などを購入し3食とも手作りのものを提供している。利用者には持てる力を維持できるよう洗濯物干しやたたみ、お皿拭き、部屋のモップかけ等出来る範囲で役割をもってもらい、生きがいを感じられるよう支援している。天気の良い日には近所を散歩をしたり名所や思い出の場所にドライブに行くなど、外出支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 施設内の掲示板に事業所理念を掲げ、職員や来客者に見えるように実践できるようにしている。 | 「生きがいと尊厳のある自立した生活と自己決定ができるように高度な介護技術を活かしながら支援します」という事業所理念を玄関の掲示板に掲げ意識づけをしている。また、今後は楽しみが多くなるよう外出などの個別支援に取り組むこととしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | できる限り地域の行事に参加するよう心掛け、散歩時に挨拶し交流を広げられるようにしている。 | コロナ禍以前は福祉ボランティアが運営する「あしたばサロン」に参加したり、幼稚園児との交流や、移動販売車の来訪時には地域住民との交流も図っていたが、現在は難しい状況にある。地域の神社の春季祭には参加して交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の行事に参加したり、施設行事にも地域の方に声をかけ来てもらい日常生活の様子、認知症について理解してもらえるような機会を作っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1度運営推進会議を行い、活動報告をし、様々な意見を聞きサービス向上に努めている。 | 地域包括支援センター職員、市職員、利用者、家族、地域住民の参加のもと、2ヵ月毎に開催している。会議での情報提供を受けて、地域包括支援センター主催の看取り、緊急時対応の研修に参加した。パルーンアート等のボランティアの受け入れについて話し合うなど、サービス向上に活かしている。 | 地域との協力関係を深めるとともに、より幅広い意見を取り入れるため、自治会関係者などに参加を働きかけることを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市担当者来訪時や申請更新時に報告、相談を行っている。 | 市担当者には運営推進会議に参加してもらっている。介護認定の変更申請や手続きの相談事などわからないことがあれば電話で相談し、助言を得ている。運営推進会議の議事録を届けた際にも相談するなどしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束について日頃から話し合い、職員同士お互いに注意しながら身体拘束をしないよう対応、ケアに努めている。 | 勉強会を月1回行っており、身体拘束をしないケアについて理解を深めている。忙しい時など抑圧的言葉遣いになってしまった時は職員同士注意しあっている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員の利用者に対しての虐待がないよう、勉強会を行い、お互いに注意し合い虐待防止に努めている。 | | |

グループホームひなた庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在利用している入居者はいないが、勉強会を行い、話し合いの場を持っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所時の契約の際、本人家族に同席していたき十分な説明をし理解、納得した上で入所に至っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族が来訪された時は、日常の様子や変化を報告し、その際に要望も受付けている。 | 家族からは面会時や電話で意見や要望を聞いている。利用者に菓子を食べさせてほしいという家族の要望に対し、日常のケアに反映させるなど、柔軟に対応している。 | 毎月の請求書とともに一言添えて利用者の情報を伝えているが、日常の写真を送ったり、アンケートをとるなど、家族が意見を表しやすい環境作りに向けた更なる取り組みを期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 普段の申し送りや月1の情報交換会で運営に関する意見を聞く機会を設けている。 | 特に面談はしていないが、夜勤前や仕事の開始前に日頃から職員の話を知っている。業務内容の改善や食事介助の仕方などの意見が出され、運営に反映させている。外国人職員に対してもわかりやすい言葉で話し合い、意見の反映に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員がやりがいを持って働けるよう環境整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内外の研修に参加し、職員一人一人がスキルアップできるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同じグループ内の職員と交流の場を設け情報の交換をし、サービスの向上に努めている。 | | |

グループホームひなた庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人の意見要望を傾聴、困っていることなど把握し安心して過ごして頂けるよう対応している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の不安や心配事、要望を聞きながら安心できる関係性を築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | グループホームの特徴を説明し、情報収集をした上で必要としているサービスを見極め検討している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員が全て行うのではなく、本人のできることややりたいことを尊重し、お互い助け合える関係性を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族が来訪した時に、日頃の様子を伝え家族水入らずの時間が持てるようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 各入居者の馴染みのあるところをドライブで行ったり、友人の面会などこれまでの関係性が継続できるよう支援しています。 | 友人の面会はキーパーソンが許可した人のみ、玄関先での面会としている。利用者が以前働いていた所など、馴染みの場所への外出に同行したり、電話の取り次ぎなどの支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士の関係性を把握し、座席の配置やレクリエーション等でお互い楽しく過ごせるよう努めている。 | | |

グループホームひなた庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用終了後も連絡できるよう関係性を大切に、必要に応じて支援や相談を行います。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常の会話、表情の中から、入居者の思いや希望を理解し職員で情報を共有しながら出来るだけ意向にそえるようにしている。 | 丁寧に話を聞くよう心掛けるとともに、目線での訴えなどからも利用者の思いや意向の把握に努めている。テレビのチャンネルの要望に対応したり、食べたいものの要望には誕生会で提供するなど、意向に沿えるよう取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族からどのような暮らし方をしてきたか把握し、本人にあった過ごし方ができるような支援に努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人の経過記録を作成し職員間で情報の共有をしています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 各利用者に担当職員を配置し、他職員とも意見交換しながら家族の意見も取り入れ本人にあった介護計画を作成しています。 | 担当職員から利用者の情報等を収集し、職員間で話し合い見直しして、家族の意見も取り入れながら介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 入居者の日々の変化や気づいたことを経過記録、連絡ノートに記入し情報の共有をしています。それを介護計画の見直しにも活かしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の希望、状況を考え様々なニーズに対応できるよう職員、上司と相談し柔軟なサービス、支援に取り組んでいる。 | | |

グループホームひなた庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 月行事や地域のサロンに参加し、暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望する医療機関で受診していただいておりますが、特にない場合は協力連携医のてらうち内科小児科医院の往診にて適切な医療を受けています。 | 入居前のかかりつけ医を主治医とする利用者もいるが、ほとんどの利用者が協力医に移行して、月1回の往診を受けている。家族には来訪時等に状態を伝えている。他科受診は家族の協力や福祉タクシーを利用して行っているが職員が対応する場合もある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 同一敷地内の小規模多機能型居宅介護の看護職員と連絡、相談しながら支援しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際は主治医、家族と情報交換しながら早期退院を目指し、退院後のケアができるように努めています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化、終末期が予測する場合、本人、家族、主治医との話し合いを設け、重度化、終末期に向けた準備、支援ができるようにしています。 | 重度化した場合や終末期の対応は、本人、家族と主治医との話し合いを行い、事業所で出来る事を説明して方針を立てている。看取りの経験はある。重度化した場合はほとんどの方が隣接するケアホームに移行して訪問介護を受けている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 不定期ではあるが、施設内外の研修に参加し対応できるようにしています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練は消防署、防災会社立ち合いのもっと年2回行い、職員が対応できるようにしています。 | 消防署立会いのもと、年2回、通報、避難、消火訓練を行っている。大雨による水害時には同法人の特別養護老人ホームに避難した経験がある。缶詰などの備蓄は賞味期限を確認し、適切に管理している。 | 災害時の避難経路や避難場所の確認など、図上での災害を想定した訓練の取り入れや、水害避難計画の作成を期待したい。 |

グループホームひなた庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員は入居者一人一人の人格を尊重し、個々にあった介護、言葉がけに注意した対応を心がけています。 | 排泄介助時は安全確保に努め、プライバシーを損ねないようドアを少し開けて介助している。声掛けは近くで話すように心掛けている。名前は「さん」付けで呼んでいる。入室時はドアをノックしている。居室で休んでいるときはセンサーを使用し対応している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者の思いや考えが言いやすい環境作りに努め、自己決定できるよう支援してまいります。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自分らしい生活、その人らしい暮らしができるよう希望や思いに合わせて過ごせるよう努めています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居者が着たいものを自己決定できるように支援しています。希望があればお化粧品もできるようにしています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節の物、畑で採れた野菜などを使い、食事が楽しみになるよう支援しています。また、一緒に準備、片付けしながら会話も楽しんでいます。 | 職員が以前作った献立表を参考にしながら、近くの八百屋、スーパーなどで食材を購入し、3食手作りで提供している。プランターで育てた野菜を使ったり、おやつや行事食などを作って提供したり、時にはお弁当を注文したりと、楽しみとなるよう工夫している。利用者には出来る範囲でゴマすり、混ぜ合わせ、お皿拭き等を手伝ってもらい、職員も同じものを食している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人一人食事量や形態が違うため個々を把握し、摂取状況が分かるように健康チェック表に記入しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行い清潔を保ち、口腔内の状態も確認しています。 | | |

グループホームひなた庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し、排泄パターンを予測して声掛け、誘導をしています。 | 排泄チェック表を使用して早めに声掛け誘導することにより、ほとんどの利用者がトイレで排泄できている。夜間はオムツやパットを使用して安眠を促している。ポータブルトイレを使用している利用者もあり、それぞれに合った支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘にならないように適度な運動、水分補給、栄養の工夫に取り組んでいる。また、主治医と相談し緩下剤にて内服管理をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 3日に1回の間隔で入浴できるようにしている。個々に合わせた介助、声掛けを心掛けている。 | 週に2回午後の時間帯に職員が1対1で支援している。拒否傾向のある利用者には声掛けを変えたり職員を交代したり、足浴をしてから気分よく入浴できるよう対応している。入浴剤やゆず湯を楽しんだり、音楽をかけるなど、リラックスできるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ゆっくり夜間は安眠してもらえるよう日々の状態を把握し、適度なお昼寝や日向ぼっこ、ベッドメイキングをしています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の内服薬は薬局で渡されるプリントにて把握、確認している。誤薬がないよう名前などの声出し読み上げ、本人確認を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 役割、興味などの支援、日頃の楽しみなど気分転換ができるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ化のため思うように外出はできていないが、近所の散歩や入居者の思い出のところを巡るドライブをしている。 | コロナ禍以前は、フラワーパークに出かけて花見をしたり、商業施設でランチを楽しむなどしていた。現在は近所を散歩して気分転換を図ったり、織姫神社や足利市内がよく見える場所や利用者の思い出の場所に月1～2回ドライブに出かけている。 | |

グループホームひなた庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭トラブルがないよう本人、家族と相談し了解のもと金銭を預かり必要に応じて使えるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 必要に応じて、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 気持ちよく過ごせるように掃除や整理整頓を行い、時間、季節を感じられる空間作りの工夫をしています。 | 窓を開けたり、エアコン、加湿器を使用して温湿度を適度に管理している。不快な臭いがないよう、消臭機能の付いた加湿器を使用している。毎朝掃除して清潔を保っている。リビングには椅子や畳の場所があり、造花を飾って季節を感じられるように工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングには椅子、ソファ、玄関ベンチ、畳があり個々が好きなように過ごせるよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人が使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込んでもらい、過ごしやすい空間になるよう工夫している。 | 居室にはベット、エアコンが備え付けてあり、布団類、タンス、衣装ケース、テレビ、テーブルは個人の使い慣れた物を持ち込んでいる。以前は神棚、位牌等持ち込む利用者もおり、それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の部屋に名前をつけたり、安全に過ごして頂けるよう環境整備しています。 | | |